

シリアル トンネリング (STUN) のコンプレックス マルチポイント

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、シリアル トンネリング (STUN) コンプレックス マルチポイントの設定例を紹介します。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[設定](#)

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。

設定

このドキュメントでは、次の設定を使用します。

ルータの設定	
ルータ A	<pre>stun peer-name 1.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc stun protocol-group 13 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 5.0.0.1 interface serial 1 encapsulation stun stun group 13 stun route address c1 tcp 7.0.0.1 interface loopback 0 ip address 1.0.0.1 255.255.255.0</pre>
ルータ B	<pre>stun peer-name 5.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 1.0.0.1 interface loopback 0 ip address 5.0.0.1 255.255.255.0</pre>
ルータ C	<pre>stun peer-name 7.0.0.1 stun protocol-group 13 sdlc interface serial 1 encapsulation stun stun group 13 stun route address c1 tcp 1.0.0.1 interface loopback 0 ip address 7.0.0.1 255.255.255.0</pre>

注: WAN設定および IP ルーティング設定は示されていません (簡単にするために)。また、シリアルインターフェイスは DCEデバイスによってクロッキングを必要とします。(NRZ/NRZI) STUN インターフェイスの符号化は NRZ にエンド デバイス符号化を-ルータデフォルト一致させる必要があります。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[Output Interpreter Tool](#) (OIT) ([登録ユーザ専用](#)) では、特定の **show** コマンドがサポートされています。OIT を使用して、**show** コマンド出力の解析を表示できます。

[トラブルシューティング](#)

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[関連情報](#)

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)